

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（新規団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ
『持続可能な小集落を目指して』

活動団体の活動地域：伊予市双海町翠地区
活動団体名：双海町翠地区ほたる保存会
中間支援主体名：NPO法人ふたみラボ

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	双海町翠地区ほたる保存会
活動地域	伊予市双海町上灘翠地区

専門性・強み

- ・昭和57年に設立され地域に根差した活動を行っている。
- ・ホタルの生育環境や河川環境の維持など環境に対する意識が高い
- ・会員は翠小学校PTAや地域住民代表者で結成されている。
- ・ホタル保護の情報発信として、ほたる祭りを地域住民と実施している。

団体の概要

昭和57年、「十進会」という地域グループ10人が「昔飛んでいたホタルを復活させたい」と、自宅でゲンジボタルの養殖を始めた。これが当団体の始まりです。毎年他の地域から譲ってもらったホタルを上灘川に放ち、餌であるカワニナの放流を続け、農薬の散布について農家に相談を行った。

活動をはじめ年々ホタルの光が少しずつ見え始めた。昭和62年には、「ホタルをみんなに見てもらおう」と実行委員会を組織し、翠小学校を主会場にほたる祭りを開催。この祭りは、今でも地域の年間行事となっている。また、環境省のふるさと生き物の里百選にも選ばれている。

今では、ホタルの保護だけでなく河川環境や自然環境など多岐に渡って活動を行っている

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	特定非営利活動法人ふたみラボ
活動地域	伊予市双海町

専門性・強み

この法人は、地域に関係する者及び事業者に対して、再生可能エネルギーの普及啓発等を行うとともに、再生可能エネルギーによる地域おこしを促進し、地球温暖化防止をはじめとする環境保全及び省エネルギー活動による、化石燃料と原発に依存しない地域づくりに寄与すること及び持続可能な地域づくりに関する調査研究を目的とする。

団体概要

- 設立：2015年に「自然エネルギー愛媛」として設立。
 - 目的：環境保全及び省エネルギー活動によって化石燃料に依存しない地域づくり、持続可能な地域づくりに寄与。
 - 活動内容：
 - ・再生可能エネルギー等に関する調査研究・普及啓発、教育広報活動
 - ・再生可能エネルギーによる地域おこしの促進
 - ・持続可能な地域づくりに関する調査研究 等
- 2024年から双海町上灘に活動拠点を移し、名称を変更。
双海町翠地区を中心に「地域おこし・地域づくり」の実践的取組みに注力するとともに、他地域でも持続可能な小集落の形成に寄与することとした。

活動団体と地域の紹介

双海町翠地区の特徴

□位置：

松山の中心市街地から海岸沿いに南西へ約25km、愛媛県伊予市双海町上灘の一部。（地図参照）

□特徴：

自然豊かな山に囲まれ風光明媚な農村風景が残る一次産業を中心とした地域。「翠」という名称は、地区内を流れる上灘川の上流に生息するカワセミの羽の色に由来。豊かな自然を背景に、ホタルの保護活動やグリーンツーリズム活動に取り組んでいる。

昭和7年建築の古い木造校舎を平成22年にエコ改修し現在も現役で使用している「翠小学校」が存在。

赤い屋根が地区の景観上のシンボルとなっているだけでなく、翠小学校で実施されたエコ改修・エコフロー事業が地域住民の環境意識やコミュニティ意識を高める契機となっており、小学校自体の魅力とともに地区・地域の魅力を増す原動力のひとつとなっている。



年度	改修前（予想）		改修後（実績）		校区外 通学者	備考
	入学者	全校児童	入学者	全校児童		
平成22年度	1人	20人	1人	20人	—	校舎エコフロー改修
平成23年度	2人	17人	2人	21人	3人	校区外通学受入開始
平成24年度	2人	11人	2人	19人	4人	
平成25年度	0人	8人	2人	15人	5人	
平成26年度	0人	6人	1人	15人	6人	
令和元年度	—	—	4人	22人	9人	
令和5年度	—	—	1人	21人	14人	創立150周年
令和6年度			4人	24人	17人	



昭和57年、「十進会」という地域グループ10人が「昔飛んでいたホタルを復活させたい」と、自宅でゲンジボタルの養殖を始めた。これが当団体の始まりです。毎年他の地域から譲ってもらったホタルを上灘川に放ち、餌であるカワニナの放流を続け、農薬の散布について農家に相談を行った。

活動をはじめ年々ホタルの光が少しずつ見え始めた。昭和62年には、「ホタルをみんなに見てもらおう」と実行委員会を組織し、翠小学校を主会場にほたる祭りを開催。この祭りは、今でも地域の年間行事となっている。また、環境省のふるさと生き物の里百選にも選ばれている。

今では、ホタルの保護だけでなく河川環境や自然環境など多岐に渡って活動を行っている

活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

持続可能な小集落を目指して ～翠小学校エコフロー事業に学び、翠地区の将来像をデザインする～

翠地区の地域づくりの発端となった翠小学校エコフロー事業は、校舎のエコ改修とそれを教材とした環境学習を合わせた事業である。その取組をバイブルとして、地域の環境・社会・経済を総合的に良くしていくことで、地域の暮らしを快適なものとし、地域住民や移住者、来訪者のウェルビーイングな地域づくりに繋げていく。それが、集落を持続可能なものとし、素晴らしい文化と自然環境を百年先、千年先の子どもたちへ送りたい。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

双海町翠地区ほたる保存会、行政、地域住民という主体と協働することで、地域内でのネットワークのハブ機能として、省エネ・再エネの視点に立ち地域を将来につないでいく、持続可能な地域であり続けるために必要な住環境・就業環境など、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、応援し合う場をつくり、地域住民へフォードバックを行うことで、ウェルビーイングな事業創出の支援機能を果たす。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善
 - ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み
 - ・改修を教材とした勉強会等の実施と、ウェブサイト等でも事業内容の周知を図る。
- 就業環境の改善を目指す取組み
 - ・地域の農林業の再生として、若い農業従事者に対して勉強会の実施。農林業就業機会の創出。
- 上記に対する地域住民の意識醸成

■ 地域の現状と課題

伊予市双海町は人口3,220人、重点地区としている翠地区は人口500人程度。人口推移から、2010年から2024年の間に68.4%に減少しており、減少傾向は明らかに危機的な状況。

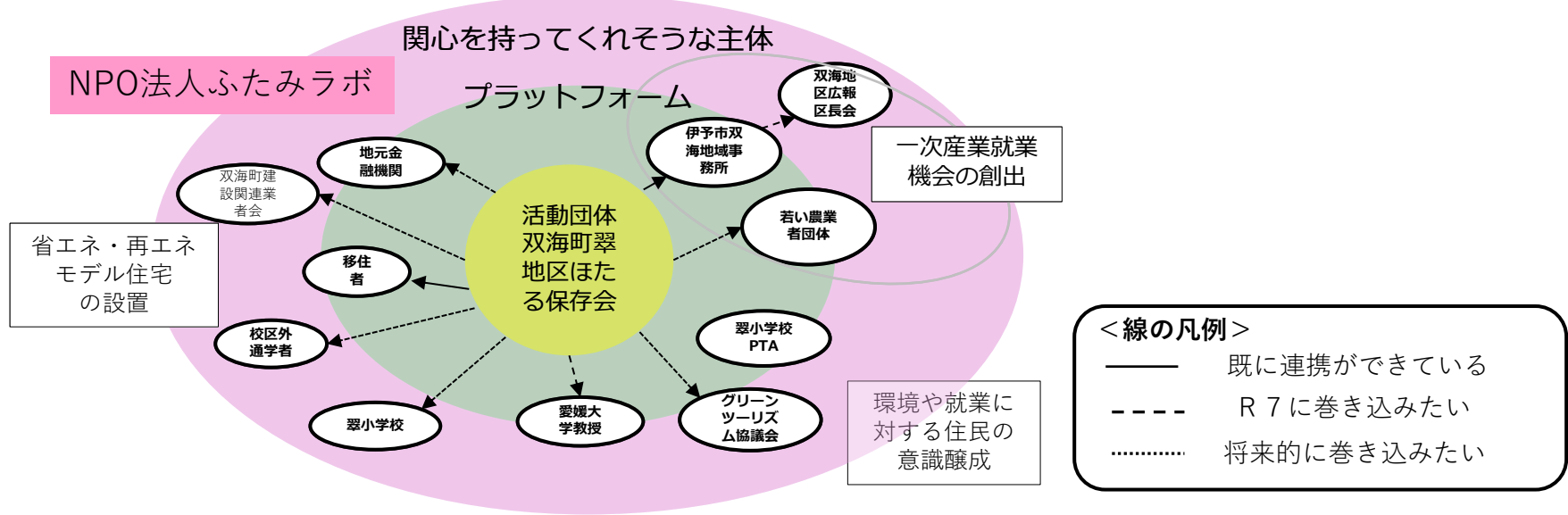
一方で、当地域にある翠小学校は、平成22年にエコ改修と環境教育事業を行っており、全児童数が2024年に24人と複式学級の小規模な小学校であるが、校区外通学と移住で児童数が増加傾向。エコ改修工事や竣工後の校舎を実例教材として、建築関係者だけでなく児童や地域住民にまで環境教育を行う取組みから、快適な学習環境の実現と環境意識の高い地域コミュニティが成立している。これが児童を育む社会環境として好意的に受け止められて、移住や校区外からの通学者を呼び込んでいる理由と考えられる。

移住希望者からは、住宅があれば移住したいと希望があるが、適切な住宅が少ない状況であり、公共交通が無いことから快適な住空間の提供と就業環境の提供が課題。

“地域プラットフォーム”のイメージ 及び実現したいローカルSDGs事業

■ 地域に必要なプラットフォームのイメージ

団体ごとの役割やカテゴリーが分るよう、下図を参考に記入ください（記載例どおりでなくても構いません）。



地方公共団体との今後の関わり

持続可能な集落に関わることであるため、課題の深掘りなど一緒に検討していける関係性を築くため、まずは定期的に情報交換をすることから始めたい。

■ 実現したいローカルSDGs事業

	検討しているローカルSDGs事業（最大3つまで）	地域の環境・経済・社会に起こしたい変化 ※地域課題解決とのつながりを考慮して記載
①	再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善 ・省エネ・再エネについての調査研究 ・モデル住宅改修へ向けて古民家等の情報収集 ・改修を教材とした勉強会等の実施	都市生活と比べ遜色のない利便性や快適性を備えた、省エネ・省資源に配慮した効率の良い住宅の増加を促し、災害による孤立時にも自立して生活が維持できる環境整備に取り組むことで、住みたくなる、住み続けたくなる生活環境を実現できる。
②	就業環境の改善を目指す取組み ・地域の農林業の再生として、若い農業従事者に対して勉強会の実施。農林業就業機会の創出。	地域の基幹産業である一次産業を中心に就業環境の改善を図ることで、若い世代の流出抑制と移住者の受入れを確保する。
③	上記に対する地域住民の意識醸成 ・地域住民等への研修会実施	①②の取組を中心に地域住民への研修会・情報発信を実施することで、住民意識の変革を促すことができる。

3カ年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

持続可能な小集落の実現に向けて、下記のことに関わる取組の実現を図る。

○再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善

- ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み
- ・改修を教材とした勉強会等の実施と、ウェブサイト等でも事業内容の周知を図る。

○就業環境の改善を目指す取組み

- ・地域の農林業の再生として、若い農業従事者に対して勉強会の実施。農林業就業機会の創出。

○持続可能な地方小集落の実現に向けて地域内外を問わず取組を広げていく。

■ 2026年度末の状態目標

持続可能な小集落の実現に向けて、下記のことに関わる取組の方向性と組織づくりを実現する。

○再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善

- ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み計画を立てる。
- ・改修を教材とした勉強会を実施。

○就業環境の改善を目指す取組み

- ・地域の農林業の再生のため、若い農業従事者や地域住民による農林業就業機会の創出を模索する。

○地域住民がローカルSDGsへの理解から取組の実現に向けて地域コミュニティを形成する。

■ 2025年度末の状態目標

地域資源や地域団体の発掘・ウェルビーイングな知識習得から、持続可能な地方小集落とローカルSDGsの理解を深め、地域づくりへの意識醸成を図る。また、持続可能な小集落を形成していくため、「生活環境の改善」「就業環境の改善」「取組の地域内外に及ぼす波及効果」について、研究成果の取りまとめを行う。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

活動団体の置かれている状況や、活動団体自身が自覚していない課題などを把握し、取組を加速させるための積極的な支援をできるようになる。それによって、多様な地域団体から頼られる存在になる。
また、新しい団体を発掘することで、地域で活動できる範囲を広げることができる。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

団体として目指す持続可能な小集落の実現のために、翠小学校エコフロー事業をバイブルとし、翠小学校を中心とした地域づくりにおいて、小学校・地域住民・地域団体・行政を繋ぎ、地域循環共生圏の概念を取り入れ、伊予市（双海町）に地域共生圏づくりを見える化していく。そのことが地域住民や各関係者の気づきに繋がり、制度の理解と取組の醸成に繋がる。
また、地域の各主体同士に加え、環境教育が地域づくりに繋がる社会の潮流を地域外にも広め、地域とのつながりを創出するハブ役となり、より多くの地域の見本となることで貢献できるよう努める。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

自身の地域の魅力や価値を自覚することは、住み続ける意志や地域への移住意欲増大を促す情報発信の上でも、必須である。地域の魅力や価値について地域住民が広く深く理解できるよう関係団体と連携し、これまでの環境問題に関連する地域での取組みや先進事例・参考事例などを題材とした勉強会を開催する。

芳しくない参加を避けるため、座学だけでなく、後述する居住環境や就業環境の改善に関する取組みの成果報告や事例体験を盛り込み、より快適で利便性に富む暮らしに向けた実用的な勉強会とする。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動団体は、ホタル保護活動から環境に対する情報発信を担う祭りの運営など行っているが、会員の高齢化と専門性の弱体化で、活動分野が限定的なものとなっている。また活動している地域の現状について、具体的に把握をしていない。	移住や校区外通学者との交流促進や地域住民からの情報提供を促し、地域力の創出を促す必要がある。専門性の観点からは、専門性のある団体との情報交換を行うことで知識習得に努め、ウェルビーイングな住環境の創出ではそれに必要な材料の掘り出しを行う。
②	活動団体が現時点で描いているビジョンのため解像度が低いため、地域の関係者との対話を重ねて具体化、かつ地域の関係者が共感できるビジョンとして作り上げる必要がある。	地域の関係者との対話の場を積極的につくる。また、なぜそうありたいのか、どういうことを意味しているか、など問いかけることで、ビジョンを言語化できるようにする。更に、地域資源やステークホルダーの繋がりを可視化するマンダラづくりに早い段階で着手し、ブラッシュアップに取り組む。
③	事業の実施主体や応援してくれる主体を探すためにも、ローカルSDGs事業による地域への効果、地域課題解決とのつながりをより明確にする必要あり。	地域課題やありたい地域の姿と、ローカルSDGs事業がどうつながっているのか、何のためにやりたい事業だったのか、を問いかけ、立ち返る機会を定期的につくる。地域内の関係者に積極的に説明や意見交換する機会を持つことを勧め、地域の主体を巻き込みながらアイデアをブラッシュアップできるようにする。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		アンケート調査			地域団体の掘起し及び勉強会の実施（3回）			先進地視察研修				
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】			アンケート調査結果の分析			現地調査及び地域資源の発掘		ローカルSDGsに向けた取組検討				
中間支援主体の支援・取組計画	アンケート設計支援		分析に係る支援指導・検討会の実施		ステークスホルダMTG 地域団体の掘起し及び講師紹介等勉強会のサポート			視察先等の紹介視察同行		ローカルSDGsの検討会サポート指導		

備考（補足説明など必要な場合は記載）